

「創刊第 3 号 ほぼ月間太っ腹新聞」 ～やっぱ、料理は和食！？～

読売センター代田橋梅丘 所長 柴田秀昭

皆さん、こんにちは&お暑うございます。梅雨明けとは言いながら連日の雨模様。きっと気象庁の人も「やばい、先走っちゃったなあ～」と思っているはず。でも梅雨が明けようが明けまいがどっちにしても暑くてつらいのは変わらず。太っ腹のワタシには辛い季節ですが、お互い頑張りましょう、石塚くん、内山くん・・・アード松村くん、伊集院くん。せ

世間的には今が、夏休み真っ盛り。お出かけの方も多いのでしょう。ちなみに我が家のお出かけは今月末頃。旅行代金がお安くなる時期に予定してます。というわけで今月は「家族旅行の思い出」を少しばかり・・・

そう、あれは去年の夏のこと。長野県白馬へ家族で旅行したときの出来事です。泊まったホテルは外国人シェフの仏料理が有名らしく家族 4 人、お昼ご飯は極力控えめに。特に楽しみにしていたのが女房殿「トリュフとかでるのかなあ～」(知らんわそんなもん)。「フォアグラとかひさしぶりい～」(あんまり期待しすぎるのもどんなもんですかあ?)。そうこうしているうちにあたりは夕闇、いざ夕食会場へ。席に案内され、しばらくするとワインリストを持ったウェイター登場、これがイケメン外国人！なぜか我が夫婦は緊張感 MAX！何気に周りを見ると他のテーブルには日本人のウェイター。「何でウチだけ外国人？」と思いつつ、冷静に一番安いグラスワインを 2 つ、子供たちにはウーロン茶をオーダー。しかしこの外国人ウェイター、どうやら日本語がよくお解かりでない様子。仕方なくワインリストを指差し「ジス、ツー。アード、ジス、ツー」どうやらご理解いただけた様子、それにしても日本で働くんだったらちと日本語勉強せい！こっちが緊張するわ。そう思いつつディナーはスタートしたのです。

前菜、スープと運ばれそれぞれナイスなお味！それはいいんですけど困ったことにこのイケメンウェイター、料理を持ってくるたびに英語で説明をするんです。しかもウチの家内に。そのたびにひきつった笑顔でうなづく我が女房殿。心臓の鼓動が聞こえんばかり。そう、女房殿の英語アレルギーは知る人ぞ知るもの。新婚旅行で海外に行ったときはほとんど無口になってましたっけ。「けっ、こいつキンチョーしてやがるぜ」そう思いつつテーブルの上に置かれた小さな紙(これが本日のお品書きつまりメニュー)に目をやると、「鱸(すずき)のポワレ何とか風・・・」、お次は魚料理ってわけですねえ。

しばらくすると両手にお皿をもったイケメン君再度登場。女房殿の前にお皿を置いてまたご説明が始まります。「スウズウーキィー&%\$#<???・・・」と英語の説明。次の瞬間、事件は起こったのです。我が女房殿、開口一番、「スズキ、ノー、アイアム、シバタ」！？げーっ、チョー恥ずかし～い！こいつ魚のスズキと名前の鈴木を間違えてる～！だいたいこの期に及んでなんで名前を名乗るわけ？何がシバタだよ～。テーブルの上の小さな紙見てみい。もしかして読めなかった？「鱸(スズキ)」・・・あまりの恥ずかしい間違いにワタシ的にはただ笑うのみ「アッハッハッ～」。すると一瞬、怪訝な顔をしていたイケメン君も笑顔で親指を立て一言「ナイス、ジョーク！」？・・・はたから見れば楽しそうなディナータイム、でも腋の下から汗がたら～りでした。その後、デザートまで我が女房殿、すっかり無口のまま・・・そして部屋へ戻って一言、「やっぱ、料理は和食よね～」ハイ、ハイ・・・ジャンジャン。

気持ちを切り替えて、今月のプレゼント！今月は

「ジャイアンツペットボトルホルダー」

暑いこの時期、お出かけの際にペットボトル持参ってかたも多いはず。とってもベンリな一品です！お申込方法はいつものとおり、先着 100 名さま限り。

電話 3429-3965 (月～土夜 9 時、日・祭屋 12 時まで)

ファクス 3439-3409 メール info@yc-shibata.co.jp

お届けは8/10以降になります。では、また来月！